

特集 ことばを使う力を育てる

デジタル教科書とその魅力

『NEW CROWN 指導用デジタルテキスト』の使い方

杉本 薫 (東京都立両国高等学校附属中学校)



はじめに

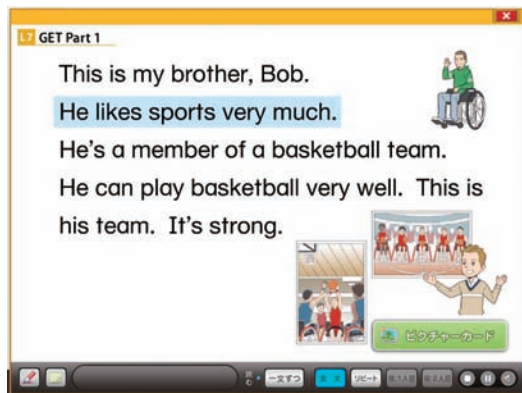
デジタル教科書『NEW CROWN 指導用デジタルテキスト』は、教科書の紙面(文章や文字、写真やイラストなど)を、電子情報ボードなどに映し出し、本文部分や写真・イラストの拡大のほか、音声の再生、フラッシュカード、ピクチャーカード、そして資料映像を提供する予定です。

生徒が顔を上げて受ける授業、先生が生徒の顔を見ながら進める授業

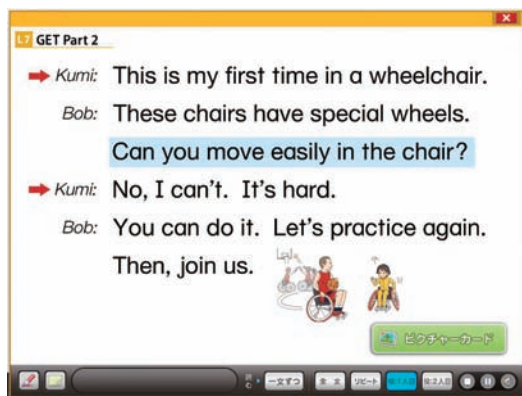
デジタル教科書というものの魅力の一端を私自身の経験から述べてみます。例えば、フラッシュカードの機能を使ってみます。メニューから選ぶだけで、下図のような単語カードを提示できます。音声を聞かせることはもちろん、意味も示すこともできます。さらに簡単に、そしてここが重要なのですが、確実にフラッシュさせることができます。私自身、ある程度のスピードと安定感(生徒の気を散らさない程度という意味です)をもってカードをフラッシュする技術を身につけるのにはかなり長い時間を要しました。今は、クリック1回ですみます。



さらにこの時、私は自分の手元を心配する必要はありません。ただ生徒の口の動きと音声に注目します。顔の表情から、自信をもって発音しているかどうか判断できます。不十分ならもう一度繰り返せばいいのです。同じことが本文の音読練習でも言えます。



まず、テキストのページと同じレイアウトですから生徒も迷いません。音声を聞かせることも、簡単な説明を加えることも、また教科書にあるドリル練習などもできます。図のように会話ベースのページでは、擬似的な会話練習も可能です。



ここまではすべて、画面を使っの指導ですから、生徒ははっきりと顔を上げていますし、教師は生徒の顔と口に注目しながら、確実に授業を進めることができます。デジタル教科書を使っていれば、テキストを開かせる時には、生徒は音読の練習を自分で始められる状態にまでなっています。後は各自のペースで練習させて、教師は点検すればいいのです。

さらにデジタルならではの効果的な使い方があります。新教材の導入や、内容理解の補強のためには、ビデオ教材が用意されています。ピクチャーカードと同じ簡単さで使えます。新しい内容のオーラルイントロダクションの情報量も画期的に増えます。教師の悩みは生徒に投げかける英語の準備に集中できます。



授業のサポートから学習のサポートへ

デジタル教科書の学習と指導の効果について、考えてみましょう。

① 音声と文字の一体的な指導

まずは音声の活用です。文字と音声とリンクさせながらの指導ができます。

② ビジュアル・イメージによる理解

画像やビデオなど、視覚に訴える指導が簡単にできます。

③ 生徒に顔を上げさせる効果

先に述べたように、生徒は画面に注目しながら練習していきます。これは、教師が生徒の顔、表情、口の動き、そして音声に集中する手助けになります。

④ 繰り返しの効果

デジタル教科書を使うと、様々な学習場面を提供

できますが、そのどれもが簡単に再現可能です。つまり、必要に応じて何回でも繰り返すことができます。絵を貼る位置にも、音声のタイミングにも気を遣わなくてすみます。

⑤ 生徒の学習サポート効果

ここまで、授業の場面での効果や利点を中心に述べてきましたが、これらはすべて次の段階にも共通するメリットです。それは、生徒が学習の方法を、自分の体験を元に授業中に確実に理解していくということです。「何を、どう練習すればいいの」ということが授業の中でしっかりと理解できていれば、生徒が自分の時間に学習する時に「やり方が分からない」ということはなくなります。

もちろん、これまでの授業と自主的な学習でもそれは可能でした。しかし、さらに、分かりやすいパターンを、繰り返し、体験的に、授業を通じて指導できる効果は絶大です。このポイントは、生徒が同じデジタル教科書を使った学習環境を手にする時には、さらに重要になります。授業の学習を自学自習に應用するというよりは、授業の中ですでにそういった学習体験を積み重ねていることになるのです。家庭学習はもちろん、パソコン室などを使った自学自習も視野に入れて考えたいことです。

おわりに

私はここまで述べてくる中で、何回も「簡単に」という表現を使いました。教師は本当に楽になるのでしょうか。残念ながら、Yesとは言えません。正確に言えば、準備や指導にかかる手間の性質が変わります。時間だけを問題にすれば、少なくなるかも知れません。

しかし、デジタル教科書ならではの留意点はあります。例えば、「生徒の画面と指導の流れへの集中を妨げない」、「手元のリモコン操作やメニュー操作に手間どらない」、「教材の提示の流れを確実に理解しておく」などでしょうか。でもこれは、よく考えてみれば、今までのアナログ教科書を主体とした授業でもやはり大切なことです。そうすると、上に述べた授業の場面と生徒の自学自習の場面を一体化するという、新次元の学習効果の大きさにこそ目を向けるべきではないでしょうか。